



グループ通信

発行/ふれディアグループ本部 編集部
〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4
朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口 ☎0120-116-017

こんにちは、ふれディア通信編集部です。 いよいよ、4年に一度の「FIFAワールドカップ」が始まりますね。 サッカーファンはもちろんのこと、日ごろあまりサッカーに興味のない人にとっても、“サムライブルー（日本代表の愛称）”の活躍は、気になりますよね！ 日本チーム初戦となるコロンビア戦は、6月19日の21時開始と観戦しやすい時間帯なので、ぜひ応援しましょう。 さて、サッカーと言えば、子どもの「習い事トップ10」に毎年ランクインするほどの人気ぶりで、幼稚園の年長から小学生の低学年で始めるお子さんが多いそうです。 そういえば、昔から6歳の6月6日にお稽古を始めると、上達しやすいと言われていました。 この「稽古始め」について、少し調べてみたので皆さんにもご紹介します。 そもそも稽古始めは伝統芸能の世界で使われていた言葉だそうです。「稽古」自体は元々中国語で、「古（いにしえ）を考え、調べて今どうしたらよいかを知ること」という意味があるそうです。 書物を読み、ものの道理や、儀式・作法などの決まりや習わしを学ぶことから由来して、日本では中世以降に芸事や武芸を習うことを意味するようになりました。 現代でもお稽古と表現する習い事は、茶道・書道・楽器など伝統や先人の教えを重んじるものが多く、サッカーなどはあまりお稽古とは言いませんよね。 そして、稽古始めの時期については、室町時代に能を大成した世阿弥（ぜあみ）が書いた「風姿花伝」という能の理論書の冒頭で、「一、この芸において、おほかた、七歳（満6歳）をもてはじめとす」と説いていることが始まりのようです。 世阿弥はこの著書の中で「どんな子でも、やりたいようにやらせておくと、自然に出てくるやり方の中に必ず個性が見えてくる。型にはめず、その子の好きなようにやらせておくのが良い。基礎的なことだけを教え、それ以上のことはさせてはいけない。」などと述べています。 これは現代にも通じる、のびのびと楽しく稽古させるコツでもありますよね。 6月6日の由来は諸説あるものの、江戸時代に歌舞伎の台詞の中でゴロの良さから「6歳の6月6日の…」と使われたものが定着したと考えられるそうです。 聞いたことのある言葉でも調べてみると、意外と知らないことが多く面白いものですね。 ふれディア通信編集部

脳トレーニングで
脳年齢を若く・
脳を活性化!

2つのイラストの違いを探してください

Bのイラストは**A**と違う部分が**5つ**あります。 イラストは180度回転していますので、注意して探してみましょう！



“解答”は他のページに載っています。

答えがわかるまでじっくり考えることが脳の活性化につながります！